

平成 2 3 年度

修 士 課 程

学 生 募 集 要 項

京都大学大学院工学研究科

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

TEL 075-383-2040, 2041

本研究科の修士課程は、大学院設置基準第4条第4項にいう博士課程の前期2年の課程です。

本試験の結果が、各入試区分ごとに定められた基準以上のものを有資格者とし、その中から合格者を決定します。

なお、合格者発表後、辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格者を決定します。

I. 募集人員 688名

入試区分	分属専攻	募集人員
社会基盤・都市社会系	社会基盤工学専攻	66名
	都市社会工学専攻	64名
都市環境工学	都市環境工学専攻	36名
建築学	建築学専攻	72名
機械工学群	機械理工学専攻	56名
	マイクロエンジニアリング専攻	28名
	航空宇宙工学専攻	23名
原子核工学	原子核工学専攻	23名
材料工学	材料工学専攻	38名
電気系	電気工学専攻	38名
	電子工学専攻	35名
創成化学専攻群	材料化学専攻	29名
	高分子化学専攻	46名
先端化学専攻群	物質エネルギー化学専攻	38名
	分子工学専攻	34名
	合成・生物化学専攻	31名
化学工学	化学工学専攻	31名

(1) 機械工学群、電気系、創成化学専攻群及び先端化学専攻群では、各系・各群ごとに一括募集を行い、合格者決定後、各専攻に配属します。

(2) 各専攻の内容については、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

II 出願資格と出願資格の審査

i 出願資格

- (1) 日本の大学を卒業した者及び平成23年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成23年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成23年3月31日までに修了見込みの者（注）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成23年3月31日までに修了見込みの者（注）
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成23年3月31日までに修了見込みの者（注）
- (6) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成23年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）及び平成23年3月31日までにそれに該当する見込みの者
- (8) 平成23年3月31日に日本の大学に3年以上在学した者（学校教育法第102条第2項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成23年3月31日現在22歳に達したもの

注：外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者又は外国において学士の学位を取得した者及び取得見込みの者は、事前に確認のため、卒業（見込）証明書及び入学願書裏面の学歴欄に記入後コピーしたものを、事前に連絡した上で、平成22年6月1日（火）までに工学研究科教務課大学院掛へ提出してください。

ii 出願資格の審査

出願資格(8)又は(9)により出願を希望する者には、出願に先立ち出願資格の審査を行いますので、次の書類を平成22年6月7日(月)午後5時までに工学研究科教務課大学院掛へ提出してください。

郵送する場合は、封筒の表に「工学研究科修士課程出願資格認定申請」と朱書きし、必ず「書留」にしてください。(平成22年6月7日(月)午後5時(必着)まで。)

【出願資格審査提出書類】

(1) 出願資格認定申請・調書	(出願資格(8)又は(9)該当者) 所定の用紙を使用してください。
(2) 推薦書	(出願資格(8)該当者) 在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。(様式随意)
(3) 成績証明書	(出願資格(8)該当者) 在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。 (出願資格(9)該当者) 最終出身学校が作成し、厳封したものを提出してください。
(4) 教育課程表	(出願資格(8)該当者) 在籍する学科等の開講科目の講義内容等が記載されているものを提出してください。

①出願資格(8)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査を行います。

②出願資格(9)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査並びに大学卒業程度の学力について筆記試験又は口頭試問若しくはその両方を行います。

③試験及び試問は、平成22年6月16日(水)に工学研究科において行います。

④資格審査の結果は、平成22年6月21日(月)に申請者あて郵送により通知します。

III 出願書類等と募集要項等の請求

i 出願書類等

(1) 入学願書・写真票・受験票	所定の用紙を使用してください。
(2) 電算処理原票	所定の用紙を使用してください。
(3) 成績証明書及び卒業(見込)証明書	本学工学部卒業及び卒業見込みの者は不要です。 (なお、本研究科に研究生として在学する者で、既に提出している場合でも、コピーを提出してください。)
(4) 登録原票記載事項証明書	外国人留学生のみ、在留資格、在留期間の記載されたものを提出してください。 出願時に提出できない者は、パスポートのコピー(顔写真のあるページ)を提出し、入学時までに必ず原本を提出してください。
(5) 入学検定料振込金受付証明書貼付台紙 ※国費留学生は国費受給を証する書類を提出	所定の用紙を使用してください。【国費留学生は不要です】 入学検定料 30,000円 【国費留学生は不要です】 振込期間 平成22年6月21日(月)～6月29日(火) (期限当日の収納印有効・期間外取扱不可) (振込方法) ①本研究科所定の振込依頼書のご依頼人欄(3ヶ所)に出願者の氏名等を記入のうえ、切り離さずに金融機関(ゆうちょ銀行・郵便局は除く。)の窓口を持参して、入学検定料を振り込んでください。ATM(現金自動預入支払機)やインターネット等での振り込みはできません。 ②三井住友銀行の本・支店から振り込む場合の振込手数料は不要です。その他の金融機関から振り込む場合の振込手数料は出願者負担となります。 ③振り込み後、「入学検定料振込金受付証明書」及び「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」に収納印が押印されていることを確認して受け取り、「入学検定料振込金受付証明書」(左半分)を「入学検定料振込金受付証明書貼付台紙」に貼付してください。(収納印がない場合、願書を受理しません。) 「入学検定料振込金(兼手数料)受取書」(右半分・収入印紙貼付のもの)は、出願者が保管してください。
(6) 受験票送付用封筒	所定の封筒を使用してください。 (350円切手(速達)貼付のうえ、受験票発送時の連絡先を記入のこと。)
(7) 合格者受験番号一覧送付用封筒	所定の封筒を使用してください。 (80円切手貼付のうえ、合格者発表時の連絡先を記入のこと。)
(8) 願書受付票	所定の用紙を使用してください。 (入試区分及び氏名を記入してください。郵送で出願する場合は、受付票の裏面にも郵便番号・住所・氏名を記入し、50円切手を貼付してください。)

(9) あて名票	所定の用紙を使用してください。 (平成23年3月上旬の連絡先を記入してください。入学手続の書類を送付するためのものなので、変更があれば速やかに連絡してください。)
(10) Letter of Recommendation	外国の大学を卒業又は卒業見込みの者は、所定の用紙を使用してください。(なお、本研究科に研究生として在学する者で、すでに提出している場合でもコピーを提出してください。)
(11) 学士の学位授与申請予定である旨の証明書	Ⅱ-ⅰ出願資格(2)に該当する見込みの者のみ提出してください。 (様式随意：学位が得られないこととなった場合は、そのことを速やかに通知する旨の記載があるもの)

* 本研究科では、身体に障害(学校教育法施行令に定める身体障害の程度)があり、受験上あるいは修学上、特別の配慮を必要とする場合は、協議しますのでご相談ください。

なお、内容によっては対応に時間を要することもありますので、相談を希望する者は、出願前の早い時期に工学研究科教務課大学院掛へ申し出てください。

- ◎ 各専攻において、前記の書類とは別に書類を求める場合があるので、注意してください。
詳細は、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

ii 募集要項等の請求

募集要項及び出願書類の郵送を希望する者は、580円切手を貼付した返信用封筒(角2サイズ24cm×33.2cmに住所・氏名・郵便番号を記入)を同封のうえ、入試区分名を明記して、「工学研究科修士課程募集要項請求」と朱書き、出願書類等提出(送付)先に請求してください。

IV 出 願 手 続

- (1) 出願者は、出願書類等を下記の出願書類等提出(送付)先に提出又は郵送してください。
- (2) 郵送による場合は、出願書類等を入れた封筒に、別添の「出願書類等送付用ラベル」をはり、必ず「書留速達」にしてください。
- (3) 出願書類に不備があるもの及び出願書類受付日後に郵送、提出された願書は受理しませんので注意してください。
- (4) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので注意してください。
- (5) 次に該当する場合には納付済の検定料を返還しますので、工学研究科教務課大学院掛へ連絡してください。
 - ①検定料は納付したが本研究科に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった。)場合
 - ②検定料を誤って二重に納付した場合
- (6) 志望する入試区分(専攻・系・専攻群)の中には、独自の書類の提出を課していることがあります。「入試区分別入学試験詳細」をよく読んで対応してください。
- (7) 複数の入試区分への出願は認めません。

出願書類受付日及び提出(送付)先

(1) 持参の場合

①平成22年6月24日(木)、25日(金)午前10時から午後5時まで
吉田キャンパス工学部8号館

②平成22年6月28日(月)、29日(火)午前10時から午後5時まで
桂キャンパスBクラスター事務管理棟

(2) 郵送の場合

平成22年6月21日(月)～29日(火)午後5時(必着)まで。

ただし、6月27日(日)以前の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理します。

送付先：〒615-8530 京都市西京区京都大学桂 京都大学工学研究科教務課大学院掛

V 入学者選抜方法と受験票

入学者の選抜は、出願書類の内容、学力検査の成績を総合して行います。

i 学力検査

(1) 学力検査日

①社会基盤・都市社会系、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械工学群、電気系

平成22年8月9日(月)～10日(火)

②原子核工学専攻、材料工学専攻、創成化学専攻群、先端化学専攻群、化学工学専攻

平成22年8月23日(月)～26日(木)

なお、詳細については、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

- (2) 試験当日は、特に指定のない場合は試験開始20分前までに当該試験室前に集合してください。

ii 受験票

受験票は、7月中旬に指定した受け取り先住所へ郵送します。

VI 合格者発表

i 日時

- (1) 社会基盤・都市社会系、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械工学群、電気系
平成22年8月20日(金) 午前10時
- (2) 原子核工学専攻、材料工学専攻、創成化学専攻群、先端化学専攻群、化学工学専攻
平成22年9月 6日(月) 午前10時

ii 場所

桂キャンパスBクラスター事務管理棟及び吉田キャンパス工学部8号館

上記日時に掲示し、受験番号を本研究科インターネットホームページに掲載します。

アドレス「<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/grad/exam/exam1>」から「入学試験」を選んでください。

また、志願者全員に「合格者受験番号一覧」を送付するとともに合格者には「合格通知書」をあわせて送付します。(電話等による問い合わせには応じません。)

VII 入学料及び授業料と入学手続

i 入学料及び授業料

入学料 282,000円(予定)
授業料 前期分 267,900円(年額 535,800円)(予定)

【国費留学生はいずれも不要】

※ 入学料及び授業料は予定額ですので、改定されることがあります。

※ 入学時及び在学中に改定された場合には、改定時から改定された新入学料及び新授業料が適用されます。

ii 入学手続

- (1) 合格者の入学手続の詳細については、平成23年3月上旬にあて名票記載の住所へ郵送により通知します。
- (2) 連絡先を変更した時は、教務課大学院掛まで、文書で知らせてください。
- (3) 事情により入学を辞退する者は、直ちにその旨を各系・専攻事務室に届け出てください。
- (4) 留学生は、平成23年4月1日までに留学ビザを取得しておいてください。
- (5) 入学手続き日は平成23年3月下旬の予定です。

VIII アドミッションポリシーについて

◎工学研究科の理念・目的

学問の本質は真理の探求です。その中であって、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担っており、地球社会の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。

京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

修士課程では、広い学識と国際性を修得させ、自ら課題を発見し解決する能力を有する高度技術者、研究者を、博士後期課程では、研究を通じた教育や実践的教育を介して、創造的研究チームを組織し新しい研究分野を国際的に先導することのできる研究者を育成します。この目的を達成するため、工学研究科では、修士課程教育プログラムに加えて、修士課程と博士後期課程を連携する教育プログラムを開設し、豊富な科目を幅広く提供します。

◎工学研究科が望む学生像

工学研究科では、次のような入学者を求めます。

○工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と意欲を有する人。

○自ら真理を探求するために必要な基礎学力を有し、既成概念にとらわれない認識力と判断力を有する人。

○創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。

IX 修士課程入学後の教育プログラムについて

京都大学大学院工学研究科では平成20年4月入学者から、従来の修士課程教育プログラムに加えて、博士学位の修得を目指す諸君を対象に新たな教育プログラム『大学院博士課程前後期連携教育プログラム』を創設しました。修士課程(博士前期課程)入試に合格し入学を許可された諸君は、所定の審査の後、以下に説明する教育プログラムのいずれかを選択することになります。

なお、教育プログラムの具体的な開講科目等については、修士課程入学後に配布される『学修要覧』をご覧ください。

試験日程一覧

詳細については、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

入 試 区 分	コース	8 月 9 日 (月)		8 月 10 日 (火)	
		時 間	科 目	時 間	科 目
社会基盤・都市社会系 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 (TEL075-383-2969)	一般学力選考	10:00～11:30 13:00～16:00	数学・物理(力学) 専門	なし	
	学科外別途選考 社会人別途選考	13:00～14:00	専門	9:00～	口頭試問
都市環境工学専攻 (TEL075-383-2969)	一般学力選考	10:00～11:30 13:00～15:00	数学 専門	なし	
	特別選考	10:00～11:30 13:00～15:00	数学(選択者のみ) 専門(選択者のみ)	9:00～11:00 13:00～	小論文 口頭試問
建築学専攻 (TEL075-383-2970)		13:00～15:30 15:45～17:00	計画系科目 環境系科目	9:00～11:30 13:00～17:00	構造系科目 設計製図
機械工学群 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 (TEL075-753-5181)	一般選考	9:30～11:30 13:00～14:30	数学 機械力学	9:00～12:00 13:30～15:30	専門科目 一般選考面接
	特別選考	なし		13:30～15:30	口頭試問
電気系 電気工学専攻 電子工学専攻 (TEL075-383-2077)	修士課程 教育プログラム	9:00～12:30 13:30～16:00	専門基礎 a 専門基礎 b	13:00～	面接 (留学生のみ)
	博士課程前後期連携 教育プログラム	なし		15:00～18:00	面接

入 試 区 分	コース	8 月 23 日 (月)		8 月 24 日 (火)		8 月 25 日 (水)	
		時 間	科 目	時 間	科 目	時 間	科 目
原子核工学専攻 (TEL075-753-5181)		なし		10:00～11:30 13:00～16:00	工学基礎 専門	13:00～17:00	口頭試問
創成化学専攻群 材料化学専攻 高分子化学専攻 (TEL075-383-2077)		9:00～10:30 11:00～12:30 14:00～15:30 16:00～17:30	英語 物理化学 有機化学 専門科目 (選択)	9:00～	口頭試問	なし	
先端化学専攻群 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 合成・生物化学専攻 (TEL075-383-2077)		9:00～11:00 13:00～16:00	英語 基礎科目	9:00～11:30 13:30～	専門科目 口頭試問		
化学工学専攻 (TEL075-383-2077)		9:00～11:30 13:00～15:30	専門科目 1 専門科目 2	13:30～	面接	なし	

入 試 区 分	コース	8 月 24 日 (火)		8 月 25 日 (水)		8 月 26 日 (木)	
		時 間	科 目	時 間	科 目	時 間	科 目
材料工学専攻 (TEL075-753-5181)	一般選考	9:30～11:30 13:00～16:00	材料基礎学 A 材料基礎学 B	9:30～11:00 11:00～	工業数学 面接	なし	
	特別選考	なし		なし		9:30～	口頭試問

創成化学専攻群（材料化学専攻，高分子化学専攻）

1. 専攻別志望区分一覧表

区分	講座・分野／研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
【材料化学専攻】 http://www.mc.t.kyoto-u.ac.jp/ja				
101	機能材料設計学講座 本区分については、平成23年度入学生の募集は行わない。	物質機能・変換科学分野	材料化学専攻の定める教育プログラムに従う	材料化学専攻の定める教育プログラムに従う
102	無機材料化学講座 無機構造化学分野 無機材料の構造、無機ナノテクノロジー材料の合成、光機能性ガラス、多孔性セラミックス			
103	無機材料化学講座 応用固体化学分野 応用固体化学、セラミックス磁性体、セラミックス誘電体、ランダムフォトリソ			
104	有機材料化学講座 有機反応化学分野 有機反応化学、立体化学、有機合成化学、有機金属化学、有機材料化学			
105	有機材料化学講座 天然物有機化学分野 天然物有機化学、有機合成、有機金属、触媒反応、電子共役有機材料、有機元素化学			
106	有機材料化学講座 材料解析化学分野 マイクロ/ナノ分離化学、機器分析化学、高分離能分析、生体反応を利用する分析化学、高機能化学センサー及び分離検出法			
107	高分子材料化学講座 高分子機能物性分野 高分子レオロジー、高分子ゲルの物理化学、高分子多相系の構造・物性、生体組織工学、生体材料物性			
108	高分子材料化学講座 生体材料化学分野 高分子材料化学、高分子機能化学、生体機能材料、糖質化学、バイオマテリアル			
109	ナノマテリアル講座 ナノマテリアル分野 ナノセンシングデバイス、ナノ構造体の電子移動特性、電子移動反応、電気化学分析			
【高分子化学専攻】 http://www.pc.t.kyoto-u.ac.jp/ja/				
401	先端機能高分子講座 A. ブロック共重合体の自己組織化を利用したナノ構造制御と機能化 B. 高分子合成化学、遷移金属触媒重合、光学活性高分子 C. 高分子界面化学、イオン性両親媒性高分子の合成と物性、自己組織化	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野	高分子化学専攻の定める教育プログラムに従う	高分子化学専攻の定める教育プログラムに従う
402	高分子合成講座 機能高分子合成分野 機能性共役高分子化学、導電性・発光性高分子合成、液晶性高分子合成、不斉液晶反応場重合、らせん状高分子、外場応答性高分子、超層構造制御、形態制御			
403	高分子合成講座 高分子生成論分野 高分子合成、精密重合、リビング重合、ラジカル重合、カチオン重合、機能性高分子、高分子精密合成、重合触媒設計、重合中間体の化学			
404	高分子合成講座 重合化学分野 高分子合成化学、重合化学、機能性高分子合成、有機合成化学、反応性高分子、環境応答性高分子、無機高分子、高分子ハイブリッド材料、金属ナノ粒子、分子イメージング			
405	高分子物性講座 高分子機能学分野 高分子ナノ構造、光電子機能材料、光化学、光物理学、高分子薄膜、光電変換、電子移動、光学顕微分光法、光イメージング			

区分	講座・分野／研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
406	高分子物性講座 生体機能高分子分野 高分子混合系・ブロックコポリマーなどの高分子系の自己組織化のメカニズムの解明による高分子材料の高機能化	物質機能・変換科学分野, 生命・医工融合分野		
407	高分子物性講座 高分子分子論分野 高分子溶液学、光・小角X線散乱法、粘度法を用いた高分子溶液の性質の解明、溶液中の孤立高分子、高分子鎖ダイナミクス、高分子集合体の分子論的理解			
408	高分子物性講座 基礎物理化学分野 高分子理論物性、分子シミュレーション、物質相の変換、ソル・ゲル変換、水溶性高分子、マクロ・ミクロ相分離、高分子レオロジー理論			
409	高分子設計講座 高分子物質科学分野 高分子構造、高分子固体物性、高分子高次構造解析と制御、高分子ダイナミクス、中性子・X線・光散乱、光学・電子顕微鏡、高分子結晶、高分子ガラス、高分子ゲル、高分子電解質	物質機能・変換科学分野	高分子化学専攻の定める教育プログラムに従う	高分子化学専攻の定める教育プログラムに従う
410	高分子設計講座 高分子材料設計分野 精密重合法による高分子材料合成、高分子の構造・物性解析、精密反応解析、リビングラジカル重合の基礎と応用、グラフト重合による表面・界面制御、機能性複合微粒子			
411	高分子設計講座 高分子制御合成分野 制御重合、精密高分子合成、リビング重合、ラジカル重合、ラジカル反応、カチオン反応、有機合成化学、元素化学、機能性材料、ソフトマテリアル、高分子結晶			
412	医用高分子講座 生体材料科学分野 先端医療を目指したバイオマテリアルの設計・合成・評価に関する研究、再生医療工学（ティッシュエンジニアリング）、ドラッグデリバリーシステム（DDS）、幹細胞工学、再生誘導用材料・デバイス、医薬用材料・デバイス			
413	医用高分子講座 組織修復材料科学分野 医療用材料、再生医療、医療用デバイス、生物研究用デバイス、低侵襲医療用デバイス、幹細胞工学	生命・医工融合分野, 物質機能・変換科学分野		
414	医用高分子講座 材料機能解析分野 生体イメージング材料・機器の開発、高分子光化学・光物理、高分子薄膜・表面の物性、単一高分子鎖の構造とダイナミクスの評価、超解像光学、単一分子イメージング			

II. 募集人員

創成化学専攻群（材料化学専攻，高分子化学専攻） 75名

III. 出願資格

募集要項1 ページ「II-i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

8月23日(月)	9:00~10:30 英語	11:00~12:30 物理化学	14:00~15:30 有機化学	16:00~17:30 専門科目（選択）
8月24日(火)	9:00~ 口頭試問			

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスターで行う。詳細は後日通知する。

V. 入学試験詳細

[英語] 配点 200 点

筆記試験（配点100 点）とTOEIC テストの成績（配点100 点）から評価する。

筆記試験：創成化学専攻群で作成した筆記試験を行う。

TOEICテスト：TOEICテストの成績を100点満点に換算する。このため、学力検査日（8月23日）から過去2年以内に受験したTOEIC「公開テスト」の成績表を提出すること。提出方法については下記項目を参照。

TOEICの「IP（Institutional Program）テスト」の成績は受け付けない。条件を満たすTOEICテストの成績表（コピー不可）を下記のどちらかで提出すること。提出がない場合および忘れた場合は、英語の該当部分の得点は0点となる。

- 1) 試験日前週の金曜日の午前9時から午後5時の間に、Aクラスター事務区教務へ提出。
- 2) 第1番目の試験科目（英語）の直前に試験室で提出。

なお、後日成績表は1年の年限で、希望する者には返却する。

なお、TOEICテストの詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

◆TOEIC：（財）国際ビジネスコミュニケーション協会・TOEIC運営委員会

Tel: 06-6258-0224, <http://www.toEIC.or.jp/>

平成22年のTOEIC「公開テスト」は、1・3・5・6・7・9・10・11月の8回が予定されています。成績表の発送まで1ヶ月を要しますので、7月実施分は間に合わない可能性が高いので注意して下さい。

[物理化学] 配点 200 点

すべて必須問題。

[有機化学] 配点 200 点

すべて必須問題。

[専門科目] 配点 200 点

無機化学（1 題）・分析化学（1 題）・高分子合成（1 題）、高分子物性（1 題）、生化学（1 題）の 5 題中から計 2 題選択。

(1) 学科試験

試験当日は開始 20 分前までに指定された試験室前に集合すること。試験開始時刻から 30 分経過した後は入室できない。また、試験開始後 30 分間は退出できない。なお、物理化学、専門科目の試験時には、受験者全員に関数電卓を貸し出す。ポケットベル、携帯電話を時計として使用することは禁止するので注意すること。

(2) 口頭試問

創成化学専攻群の受験生全員に対して第 1 志望の専攻で口頭試問を行う。8 月 24 日（火）午前 8 時 45 分までに受験票交付時に指示する面接控室に集合すること。面接控室で「連絡先届」用紙を配布するので、口頭試問後の連絡先を明記して控室の担当教員に提出すること。同届を提出しなかった場合、受験者の不利益になることがある。

創成化学専攻群の受験生でさらに面接を要する者の受験番号・氏名を 8 月 24 日（火）午

後3時に口頭試問を受けた専攻の面接控室前に掲示するので、すべての受験生は必ず確認すること。

VI. 出願要領

志望区分の申請

願書の志望区分欄に志望順位1位から志望順位10位までの区分を記入すること。Ⅰ.の「専攻別志望区分一覧表」を参照して申請すること。なお、「専攻別志望区分一覧表」に記載の各専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には5種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「創成化学専攻群」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは、合格した専攻・分野に応じて決まり、下記の通りである。

- (1) 修士課程教育プログラム
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（材料化学専攻）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（高分子化学専攻）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「Ⅰ. 専攻別志望区分一覧表」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、本募集要項6ページ以降記載の「X 教育プログラムの内容（融合工学コース）」及び、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

(a) 材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これらが現在の生活および産業基盤を支えていること、また先端化学が将来果す役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の生い立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育をおこなっています。修士課程では、広く材料化学全般にわたる基礎的な知識を習得し、無機材料化学、有機材料化学、あるいは高分子材料化学の分野で先端的な研究を進めることによって、化学工業をはじめとする産業界で研究開発に携る人材を育成すると同時に、博士後期課程に進学してさらに研究を深める人材を養成します。

(b) 高分子化学専攻

高分子は人類の現代生活を支える必需物資として、産業の基幹となる資材として、さらに化学・繊維から医療や電子産業、航空宇宙分野まで、豊かな社会と先端技術を実現する機能材料として、幅広い領域に展開しています。21世紀に入り、高分子が活躍する分野はますます拡大し、人間社会における重要性も増大するものと思われます。本専攻では、このような高分子の生成、反応、構造、物性、機能について基礎研究と教育と

をおこなうとともに、その成果を社会に還元し、関連する学術分野との連携を通して、新たな科学技術の創成に貢献することを目指しています。また、高分子を基礎とする先端領域において活躍できる独創的な研究能力を備えた研究者、技術者を養成します。

【高度工学コース】

(a) 材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これらが現在の生活および産業基盤を支えていること、また先端化学が将来果す役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の生い立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育をおこなっています。このような環境の下、無機材料化学、有機材料化学、および高分子材料化学に及ぶ材料化学全般にわたる基礎的な知識を修得します。さらに、独創的な発想と明敏な洞察力により積極的に材料化学の新領域を切り拓く能力をもった化学者・化学技術者を育成します。

(b) 高分子化学専攻

高分子化学専攻は高分子の基礎的科学（合成、反応、物性、構造、機能）に関する研究と教育を行うとともに、高分子関連の新材料創出と新たな科学技術の開発を目指し、自然や社会と調和した生活の向上に貢献することを使命としています。そのため、材料、生命、医療、環境、情報に係わる分野を含めて、幅広い領域に展開しています。21世紀に入って高分子が活躍する分野はますます拡大し、社会における重要性も増大しています。本専攻では、広く正確な知識の習得、基礎学力と思考力の養成、高度技術の修得の3つの目標をもとに研究と教育とを行い、相互に有機的関連を持たせたカリキュラムのもとで、高分子を基盤とする先端科学技術領域において国際的に活躍できる独創的な研究能力と豊かな人間性を備えた研究者、技術者を養成します。

【融合工学コース】

本募集要項6ページ「X 教育プログラムの内容」を参照すること。

IX. その他

試験当日受験票を忘れた受験生は速やかにAクラスター事務区教務へその旨を申し出ること。

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂 A クラスター事務区教務

電話 075-383-2077

E-Mail : 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.s-ic.t.kyoto-u.ac.jp/fro/ja/admission/top>